

第 1 回 徳島県広域道路ネットワークに関する検討委員会

日時：令和 2 年 7 月 28 日（火） 13:15 ～

場所：徳島県庁 11 階 講堂

～ 議 事 概 要 ～

■議事（１）これまでの国の動向について

（事務局）

【資料 1】により説明

※質疑無し

■議事（２）徳島県新広域道路交通ビジョンについて

（事務局）

【資料 2】により説明

（奥嶋委員長）

この道路交通ビジョンの位置づけなんですけど、県の計画の中でどのような位置づけになるのでしょうか。かなり上位の計画になるのでしょうか。

（事務局）

県の計画では、行動計画が最上位の計画となります。

道路の計画としては、重要物流道路や緊急輸送道路の計画などがございしますが、それらを含む上位の計画となります。

■議事（３）主に意見を頂きたい事項について

（金井委員）

私からは、3 点申し上げます。

1 点目は防災道の駅について賛成でございます。

先日、「みまの里」に行きましたが、かなりの施設が備わっている。

これらの施設の維持管理への支援が必要になると考えております。

また、これだけの施設があることを地域の方々が知らないもので、周知できればより機能強化されると思います。

2 点目は、中山間の地方道の維持でございます。

これらの道路は、豪雨や土砂災害に伴う孤立対策において重要な道路となります。

大規模な道路が「動脈」であれば、これらの「静脈」も最低限の整備・維持管理が必要だと考えております。

3 点目は、計画の評価についてでございます。

これからの 10 年の間にも劇的な変化が想定されます。

計画においては、目標を定めて 1 年に 1 回は点検をすることが必要と考えております。

また、道路管理者のメリットや利用者のメリットを整理することも必要と考えます。

(小笠委員)

意見を頂きたい項目からは外れますが、やはりミッシングリンクの解消や都市部の渋滞緩和について、やっていただいておりますが、最重要課題として少しでも早くやっていただきたいと思います。

また、徳島道の4車線化もお願いしたいと思います。

③の中心都市の移動について、現状ではどうしても徳島東部を通るルートが中心となっていますので、西部と南部を結ぶ道路が無いわけではございませんが、普段から通しやすい道路整備ができていれば、災害時にも有効な道路になると思います。

次に、重要港湾についてでございます。

重要港湾は、インバウンドや物流の観点でとても重要な施設でございます。

しかしながら、重要港湾へ行く道が脆弱であるため、特にインバウンドにおいてバスが渋滞したということがございます。

(湯浅委員)

高速移動が経済の活性化に繋がるという観点でこれまでやってきました。

人口減少やコロナ禍において、経済合理性と違う観点での意見を言います。

まず、防災についてでございます。

徳島は安全で災害から逃れられる道路整備を進める必要があると思います。

また、港湾関係者が安全に仕事ができることも重要と考えております。

これらの内容と経済合理性がマッチしていませんでしたが、これからは地域の安全、域内移動への配慮も必要になると考えます。

(日下委員)

観光面からの意見でございます。

県西部には関西からも多くの観光客が来ていただいておりますが、南部の道路が弱い（行きにくい）点がございますので、南部への道路整備が必要と考えております。

また、インバウンドにつきましては、コロナ前の状況になりますが、香港・台湾・欧米から多くの観光客に来ていただいておりますが、公共交通が脆弱なためレンタカーで来られるケースが多くございます。

外国人観光客は、山間部の1車線道路になれておらず、特に右側走行国の方々は対向車が来た際にとては危険な状況となります。

また、かずら橋から剣山へ向かうルートは大型バスの走行が困難なため団体客は中型バスの乗り換えるか行くのをあきらめる状況となっておりますので、観光誘客を図るための道路整備も必要と考えております。

(奥嶋委員長)

ミッシングリンクの解消や都市部における環状道路の整備は、重要ですので引き続き進めていただきたいと考えております。

広域道路ネットワークを考える上で、今後 30 年を見据えたときに自動運転ができる車が増えていると思います。

特に、高速道路におけるトラックの隊列走行が進むと考えられますので、高速道路の片側 2 車線化の整備が必要となります。2 車線になると片側をトラックの走行レーンとできますので。

自動運転で高速道路を走ってきたトラックも最後は、一般道を走行することになりますので、インターチェンジから物流拠点までを重要物流道路として片側 2 車線の整備を行うことが必要と考えております。

また、この物流拠点は災害時においても、徳島県が被災した際に他県から高速道路を使って物資が入ってくるのに重要となります。

さらに、自動運転対応の道路整備が進むと、観光バスへの波及効果も期待できると思います。

■議事（４）今後のスケジュールについて

(事務局)

【資料４】により説明

※質疑無し

(以 上)